

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月4日実施)	総合評価 (3月28日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	主体的・協働的な教育活動を通し、学習意欲を高め、課題解決力を育成するための教育課程の充実を図る。	①ICT を利活用した主体的・協働的な学習を促進し、組織的な授業改善に取り組む。 ② 特別活動の活性化を図り生徒の主体的な行動を促進する。	①生徒による授業評価の集計結果や、授業見学における相互評価について分析し、外部講師による研修等を通し、アクティブ・ラーニングを中心とした組織的な授業改善に取り組む。 ①確かな学力の向上を図るため、言語活動の充実やICT を利活用した授業内容とその指導法に関する研究を進める。 ①サポートティーチャーの有効活用や補習等により、生徒一人ひとりの特性や学習状況に応じたきめ細やかな指導を行う。 ②生徒会の自主的な活動や、学校行事への積極的、恒常的な参加体制を構築する。	①生徒による授業評価が向上したか。授業見学者が前年度比5名以上増加したか。研修会への参加者は8割以上となったか。 ①言語活動や ICT の利活用を取り入れた授業の実践が、生徒の主体的・協働的な学びの支援につながったか。 ①生徒一人ひとりの状況に応じた指導を実施することができたか。補習指導やサポートティーチャーの活用・利用回数は前年度より増加したか。 ②生徒会活動や学校行事に参加し生徒が達成感を得ることができたか。	①7月と12月に授業評価を実施し、12月は7月と比較して、8項目全てにおいて、「4.かなり当てはまる」と「3.ほぼ当てはまる」の合計の割合が1ポイントから4ポイント評価が向上した。 ①第1回授業見学月間では12名、第2回授業見学月間では19名の見学者があった。昨年度比10名増であった。 ①研修会の参加率は第1回63%、第2回60%、第3回は88%であった。 ①ICTを使った授業に関するアンケートでは、「自主的な学びの支援につながったか。」の設問では、昨年度34%に対し今年度は45%に改善されたが、平成26年度の46%と同程度であった。 ①補習受講者は前年度よりも減少したが、サポートティーチャーの活用者は、復習から入試対策まで、全年次で大幅に増加した。延べ916人であった。 ②委員会や部活動が積極的に行事に参加し、活発に活動した。レクリエーション大会の審判、役員を部活動生徒や体育委員会生徒が受け持った。	①研修会の設定が夏季休業中になったために、参加者が少なかったと考えられるので、早めに講師依頼等をして早目の周知徹底を図りたい。 ①ICT 利活用授業の受講者の70%以上の生徒が、楽しく、積極的に、集中して取り組むことができたと回答している。今後も引き続き、自主的な学びの支援につながるような授業を研究する。 ①サポートティーチャー(以下ST)、スタディサプリ、補習等の活用を推進する工夫を行う。 ②行事に参加している部活動や委員会が増加してきている。更なる取組みを検討する。	(学校評議員) ①授業見学の実施数が増えたと良い。他教科の授業を見ることも必要だ。 ①パソコン利用のための基礎技能をもっと身に付けさせると良い。 (保護者) ①STは多数の生徒が利用しているとのこと、心強い。わからないことや困った事をすぐに聞ける体制は素晴らしい。 ①集団だけでなく個別での細かなサポートは有難い。 ①スタディサプリの活用状況はどうなっているのか。 ①中学まで勉強の進め方がわからなかったが、先生方の指導で取組みが変わった。 (保護者) ②旭陵祭に関しては PTA・生徒共に食べ物の企画が多いが、他の工夫を生徒に考えさせてみる必要がある。	①平成28年度からICT利活用授業研究推進校に指定され、アクティブ・ラーニングおよびICT 利活用に関する研修を実施し、指導内容や方法を研究しその研究の普及を図った。 ①STの利用者は延べ1000名を超えた。多くの生徒が利用し学びの支援につながった。 ①スタディサプリは利用者が少なかったのが、先生方の指導で取組みが必要である。 ②文化祭企画の内容についてはより創造的なものとなるよう、反省を踏まえ検討中である。	①授業見学月間に限らず日常的に見学したり、短時間参観などをさらに進める。外部講師による実践的な研修を継続的に行い、授業改善をさらに進める。 ①引き続きSTについて生徒に周知し、個別学習支援を継続する。また、個別支援で得られた情報を職員間で共有し、組織的な学習支援につなげていく。 ②学校行事において、企画・運営面で生徒が主体的に関わる場面を多くするよう引き続き検討する。
2 生徒指導・ 支援	豊かな感性と規範意識を育み、個に応じたきめ細やかな支援教育を推進する。	①基本的な生活習慣の定着を旨とし、継続的・日常的な指導体制を構築する。 ②個に応じた支援に向け、きめ細やかな生徒指導・支援体制の充実を図る。	①問題行動の未然防止のために職員間の共通理解による予防教育を徹底する。 ①生徒の交通安全意識を高めるために外部機関との連携をさらに強化していく。 ②スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー及びその他の外部機関との連携をより強化するとともに、複合的、複雑化している個別の課題に対応するため、チーム支援や職員研修のさらなる充実を図る。 ②部活動への参加率向上のため、課題を改善するとともに、教員と生徒のコミュニケーションの機会を増やす工夫をし、部活動の活性化を図る。	①生活指導通信、年次通信、年次集会等で言葉遣いや身だしなみなどの規範意識の醸成につなげることができたか。 ①生徒の意識を高め、交通安全教育を充実させることができたか。講演会、講習会や研修会の実施回数、生徒及び職員アンケートプラス評価 80%以上を実現できたか。 ②年次間での情報交換会の実施回数。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの相談による課題の解決度は増加したか。 ②部活動参加率向上に向けた課題改善工夫はできたか。年度末における入部率 30%以上は実現できたか。	①社会的なルールに関する指導を「生徒指導通信」などを通じて進めた。 ①自転車点検など新入生を中心に交通安全指導を行った。また、9月には旭区地域振興課の協力を得て、スクエアドストレイトを実施した。 ②4月、7月、1月と3回の情報交換会議を実施し、支援する必要がある生徒を全体で把握することができた。 ②外部機関との連携を図るなど、教育相談体制の確立に努め、それぞれが連絡を取り合いながら対応できた。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置もあり、相談体制を手厚くすることができた。 ②「学校生活アンケート」をもとに「いじめ問題対策会議」を開き、生徒の実態把握に努めた。 ②旭陵祭、サマー・ウインター両ステージ、陸上競技大会等、各部の部員同士が協力し、積極的に活動した。 ②15期生の入部率が伸びなかったが、全体では31.6%の入部率であった。関東大会にゴルフ部、写真部が進出するなど、優秀な成績を残した。	①日常の生徒への声かけを大切に、問題行動の未然防止と早期発見に努める。また、社会的マナー違反に対し、引き続き全職員で即応できる体制を作っていく。 ①ネット上のトラブル等、今までは異なる内容の事案も発生してきており、指導のあり方について、慎重に検討していく。 ①交通安全教室の開催や各種資料を用いての日常的な指導を行うなど、交通安全教育を充実させる。 ②今後も連絡をより密に取りながら、教育相談を充実させる。情報交換会議にあがる生徒を継続的に支援し、必要であれば外部機関へと繋ぎ支援する。 ②いじめ防止に向けて定期的に見直し、現状に応じた取組みを考える。 ②部活動への入部をさらに促進するための広報活動の充実と中途退部者の減少を目指す工夫をする。	(学校評議員) ①生活習慣のできていない生徒の指導には、小中学校や福祉との連携が必要ではないか。 (保護者) ①ネット上のトラブルで、予期せず加害者や被害者にならないよう引き続き指導をお願いしたい。 ①礼儀正しい生徒も多く、廊下ですれ違う時も挨拶してくれるのが気持ち良い。 ①先生方は生徒によく声をかけてくれ、生徒をよく見ている。親として安心。バスの中などでマナーが守れない生徒も個別に指導していると聞き、安心している。担任の先生も面談の際に細かく話を聞いてくれ感謝している。 (保護者) ②部活動は、入部率をあげる工夫が必要。広報だけでは入部率は上がらない。頑張りたい生徒の気持ちをもっと引き出せるような工夫をしてほしい。部活動は全体的にまだまだこれからという感じ。充実して欲しい。	①ネット上のトラブル等が増え、指導内容について慎重に進め検討していく必要がある。 ①交通安全教室において、スクエアドストレイトを実施し交通安全に対する意識を啓発した。 ②年3回実施した情報交換会議及び適宜開催したケース会議により情報共有ができ、個別支援につなげることができた。また、SC、SSW及びその他の外部機関との連携により、一人ひとりの生徒の状況に沿った支援・指導を行うことができた。 ②部活動加入率は昨年度比では減少したが、平年並みである。	①問題行動の未然防止のために職員間の共通理解による予防教育を徹底する。 ①業者等を活用し SNS に関するトラブルについての指導方法の検討を進める。 ②SSW・SC や外部相談機関や医療機関、福祉関係施設との連携をさらに進める。 ②大会実績はもとより活動内容等について周知する場面を拡充する。 ②部活動の活性化のための広報活動や顧問の指導時間の確保等により加入率の増加を図る。

3	進路指導・支援	生徒一人ひとりの進路実現を目指し、必要な基盤となる能力や態度を育成する。	① 系統的かつ個に応じたキャリア教育実践プログラムの充実を図る。 ② 自己理解・他者理解に努め、社会性の涵養を図る。	① 「自分らしい生き方」を追求し、進路実現できるよう、3年間を通じた系統的なキャリア教育実践プログラムの工夫と充実を図り、個に応じた支援を行う。 ② 外部教育機関等を活用し、より充実した体験活動ができる環境を整備する。 ② キャリアカウンセリング制度の活用や補習・面接指導等、個に応じた指導を展開する。 ② 各種研修等を通し、職員のキャリア教育に関わる意識の向上とスキルアップを図る。	① 「キャリアの時間」を中心としたキャリア教育実践プログラムは工夫改善できたか。 ② インターンシップ等を活用する生徒は増加したか。 ② キャリアカウンセリング制度の活用や補習・面接指導等、個に応じた指導を展開できたか。 ② キャリアカウンセリング制度の利用者数は前年度比10%増加したか。 ② 職員キャリア教育研修会への参加率。	① キャリア教育実践プログラムを踏まえた系統的、継続的なキャリア教育の実践を行った。 ② 外部機関を活用し、充実した体験活動ができる環境を整備した。インターンシップ参加者は増加し、仕事の学び場は減少した。 ② 補習や面接指導等、個に応じた指導を展開した。キャリアカウンセリング制度を利用した生徒は、昨年度より約17%増加した。延べ約1,300人であった。 ② 充実した職員向けの研修会を開催でき、出張等やむを得ない場合を除き、全員参加であった。	① 高校教育改革による本校カリキュラムの変更等を踏まえ、より良い教育実践を検討する。 ② 生徒への広報方法等の改善を図り、より多くの生徒が参加できるような環境づくりをする。 ② さらに、活用しやすい環境づくりに努める。 ② 職員や生徒のニーズに合った、よりよい研修会になるように努める。	(保護者) ① 個別に作文の添削をしてもらいながら進路について学んでいるのは良いと思う。 (学校評議員) ② 地域貢献デーなどに生徒が施設に行き活動することは、職場体験の機会ともなる。 (保護者) ② 進路指導は、とても充実していて手厚いと感じる。 ② 積極的に生徒が先生に相談できる環境があるが、十分に活用されているか疑問に感じる。	① キャリア教育実践プログラムを踏まえた系統的、継続的なキャリア教育の実践が進路未定者の減少等の成果をあげた。 ② きめ細かなキャリアカウンセリングにより進路実現を促進し、特に就職希望者については全員内定を獲得することができた。	① キャリアカウンセリングやその他の進路支援のノウハウを次年度以降の指導に引き継ぎ、組織的・体系的指導をより充実させる。また、保護者向けの進路説明会の周知徹底を図る。 ① 外部教育機関による職員向けの研修を実施するなど職員の指導力を向上させる。
4	地域等との協働	地域や保護者等との連携・協働を促進し、学校の教育力向上を図る。	① 地域や保護者等との連携を強化し、学校行事等の活性化を図る。 ② 学校の教育活動について広く情報発信し開かれた学校づくりを推進する。	① 保護者と教職員及び生徒が連携して教育環境の整備を推進する。 ① 学校へ行こう週間や地域貢献デーにおける生徒の取組みをさらに向上させるよう工夫し、日常的なボランティア活動につながる仕組みづくりを整備する。 ① 様々な学校行事の周知方法を工夫し、さらなる来校者の増加を図る。 ② 中学生とその保護者や地域の方々に年次進行型の単位制普通科の特色について理解を深めるための広報活動を行う。	① PTAと連携した環境整備活動が実現できたか。 ① ボランティア活動に参加する生徒は増加したか。 ① 学校行事や地域のイベント等を通じた地域との交流は増加したか。 ② 学校説明会、進学個別相談会の参加者数は前年度より増加したか。学校ホームページの更新回数は前年度より増加したか。	① 10月の除草、3月のペンキ塗りを実施。参加者が増加し協力して校内整備を行った。 ① 地域貢献デーについては、学校全体で取り組み、15期生は、地域9施設と連携した。 ① ボランティアガイドスには合計41名の生徒が参加し、今年度は2名が単位を修得した。3月に外部講師(地域の3施設)による「ボランティア活動講演会」を行った。ほぼ全生徒が活動の理解を深めたと答え、好評であった。 ① 旭陵祭については、地域からの来校者は2日間で1,278名であった。 ② 学校説明会、進学個別相談会の参加者が前年比50%増加した。特に12月の相談会では、予定を大幅に超えて参加者があり対応した。	① 今後ますます環境整備が必要になるので継続的に活動できるように保護者と教職員及び生徒との連携を充実させる。 ① 地域施設との良好な関係を維持し、学校行事について積極的に地域への広報を行う。また、地域貢献デーの充実を図る。 ① 生徒がボランティアを行える施設の更なる拡充を目指すとともに、本校でどのような活動が行われているか機会をとらえたより積極的な広報活動を行う。 ② 説明会日が他校と同じなどの理由で一度も参加できない中学生が多数いるので、説明会及び相談会の日時をニーズに合わせて設定していく。また、中学校訪問の日程を再考しより効果的な広報活動を進めていく。	(学校評議員) ① 地域貢献デーには、部活動単位での参加も歓迎する。是非自分の施設に来てほしい。 (保護者) ① 学校からの連絡であるまち comi に PTA からのお願いやサポートメンバーの募集などのお知らせに引き続き活用したい。 ① 子供達が気持ち良く元気にボランティア活動をしている姿に感動させられた。一部の生徒だけではなく、全校生徒で行えるボランティアとして、例えば地域の駐車場の掃除や落ち葉拾いなどを引き続き行ったらどうか。 (学校評議員) ② 平成29年度から年次進行型の単位制普通科高校に変わるということは、学校として変わるチャンスだとも考えられる。3年後が楽しみだ。	① 地域貢献デーへの全校をあげての参加及び地域施設におけるボランティア活動への参加により、地域との連携を深めることができた。また、地域行事への積極的な参加を促し交流に努めた結果、地域からの参加要請も増加した。 ② 平成29年度からの年次進行型単位制普通科高校としての本校の特色を理解してもらうために学校説明会の内容、中学校訪問時の説明内容を工夫するとともに、個別相談の機会を多く設定した。	① 周辺地域との連携を更にすすめるとともに、近隣の中学校、小学校との連携をさらに強化していく。 ① 学校へ行こう週間や学校行事に、地域の自治会等との連携・交流を深める。また、行事等の広報を引き続き地域にも依頼していく。 ① 学校説明会の時期については、中学校の年間行事予定などを参考に見直す。 ① ホームページについては、さらに迅速な更新や内容の充実を図る。
5	学校管理 学校運営	教育環境の変化に迅速に対応し、安全安心に基づいた信頼される学校づくりを推進する。	① 自他を大切にす命の教育や防災教育を推進する。 ② 事故・不祥事の未然防止に向けた取組みを組織的に行う。	① 自他の安全を図り、いのちを大切にす教育や地域と連携した防災教育を推進する。 ② 調査書作成・点検マニュアルに基づき、調査書の組織的な作成と点検をさらに充実させる。 ② 事故・不祥事防止のための職員研修を充実させる。 ② 教育活動における「報」「連」「相」を徹底する。 ② 適正かつ迅速な会計処理を行うための会計マニュアルを作成する。	① いのちを大切にす取組みの実践をさらに充実させることはできたか。 ① 地域等と連携した防災に関する取組みは実施できたか。 ② 調査書等の発行に向けた点検体制をさらに充実させたか。 ② 事故・不祥事防止のための職員研修は効率的に実施することができたか。 ② 「報」「連」「相」は徹底できたか。 ② 適切なマニュアルは作成できたか。	① DIG 研修を職員及び15期生防災係を対象に実施した。防災訓練では保護者の協力を得て、備蓄食糧喫食訓練も実施した。 ① 研修旅行において、福島県いわき市を訪れ防災学習をととして、いのちの大切さを学ぶことができた。 ② 当該年次や他のグループと協働して、マニュアルに基づいた作成と点検を実施した。 ② 毎月、不祥事防止職員啓発点検資料によるチェックを実施した。外部講師を招いて、「守秘義務、個人情報保護及び事故不祥事に伴う処分等について」の研修を実施した。 ② 「報」「連」「相」の徹底を図り、年次間の情報の共有化を推進することができた。 ② 私費会計マニュアル周知と、私費会計書式の改訂を行い事故防止に努めた。	① いのちを守る教育と防災教育が実効的なものになるよう着実に進めているので今後も継続していく。地域及び保護者との連携をより進めていく。 ② 時間の確保が課題であるが、事故・不祥事防止に向け、職員研修をさらに充実させる。 ② 職員間の情報の共有化をより一層推進する。 ② 振込みが遅れないよう、迅速な会計処理に努める。	(学校評議員) ① 地域の施設にある、循環式の水路や防災用の井戸など災害時のための設備の存在を生徒を含めたより多くの人に知ってほしい。 (保護者) ① 災害時の訓練はとても大切。喫食訓練は、毎年あるといい。 ① 研修旅行に行かないと分からない貴重な体験ができたのではないかな。子どもも楽しく学べたようだ。 ① 研修旅行先のリゾートホテルでの自由時間は、生徒たちも十分施設を楽しんでいた。 (保護者) ② 旭陵祭で一部の情報の共有が不十分であり戸惑う場面があった。連絡調整の工夫が必要である。	① 防災教育については、防災訓練の他、3.11を風化させない取組みを行った。 ② 全職員による一斉点検など事故不祥事防止に向けた取組みを繰り返して行った。 ② 事務連絡等については、学校ポータルサイトを活用し円滑な共有がなされ、打合せの時間等を大幅に短縮することができた。	① 地域の防災行事への生徒を含めた積極的な参加について検討する。 ① 職業体験や防災学習の可能な研修旅行先についてはさらに検討を進める。 ② 引き続き全職員体制による総点検を実施する。 ② 学校行事などの場面での、職員の情報の共有化を徹底していく。